

香川県立保健医療大学リポジトリ

平成28年度 ベトナムビントゥアン医科大学校（BT
MC）と本学の国際交流報告
—高齢者健康ケアに関する教育支援—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 秋恵, 竹内, 千夏, Kobayashi, Akie, Takeuchi, Chinatsu メールアドレス: 所属:
URL	https://kagawa-puhs.repo.nii.ac.jp/records/252

平成28年度 ベトナムビントゥアン医科大学校 (BTMC) と 本学の国際交流報告 —高齢者健康ケアに関する教育支援—

小林 秋恵^{1)*}, 竹内 千夏¹⁾

¹⁾香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

Report on International Exchange between Binh Thuan Medical College (BTMC) and Kagawa Prefectural University of Health Sciences (KPUHS) in 2016 — Providing Support to the BTMC Teaching Staff on Elderly Health Care Training and Education —

Akie Kobayashi^{1)*}, Chinatsu Takeuchi¹⁾

¹⁾Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences

要旨

ベトナムでは、高齢化の進行に伴い、高齢者健康ケアを担う医師や看護師の育成が課題となっており、ビントゥアン医科大学校 (BTMC) 教員から高齢者健康ケアに関する学習ニーズがあり、それを支援する目的で訪問した。

今回の訪問で、BTMC教員を対象に高齢者健康ケアに関する講義と看護技術の指導、ベトナムと日本の高齢者健康ケアの情報交換およびベトナムの高齢者施設の視察等の活動を行った。

BTMC教員・学生の高齢者理解の困難さ、政府の高齢者関係の政策は整備されているが、高齢者健康ケアに関する学生教育について大きな自助努力を重ねていることが理解できた。

今後、国際交流でBTMCの学習ニーズに応えていく場合、社会の発展背景の違いや共通言語がない中で共通理解する困難さ、また看護学教育と実務教育との違いを認識したうえで十分な準備をして臨む必要がある。

Abstract

Vietnam's aging population has created challenges in terms of training for the doctors and nurses responsible for providing health care to the elderly. We visited the Binh Thuan Medical College (BTMC) in Vietnam to provide support in meeting the educational and training needs of BTMC teaching staff in the field of elderly health care.

During our visit, we gave lectures and technical nursing instructions on elderly health care to the BTMC teaching staff, prepared a report on current elderly health care in Vietnam and Japan, and visited care facilities for the aged.

The visit enabled us to understand the difficulties that BTMC teaching staff and students encounter in understanding the needs of the elderly, and the considerable autonomous efforts that have been made to educate and train students on elderly health care despite the establishment of government policies relating to the elderly.

Any future international exchanges aimed at supporting the education and training needs of BTMC will need to be well-prepared based on recognition of the different backgrounds of social development in Vietnam and Japan, the difficulty in attaining shared understanding given the lack of a common language, and the differences in the two countries' respective systems of nursing education and practical training.

Key Words: ベトナム (Vietnam), 国際交流 (international exchange), 高齢者健康ケア (health care for the elderly), 教育支援 (support for nursing education)

*連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 小林 秋恵

*Correspondence to: Akie Kobayashi, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural University of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Takamatsu, Kagawa 761-0123, Japan
E-mail: kobayashi@chs.pref.kagawa.jp

はじめに

香川県立保健医療大学Kagawa Prefectural University of Health Sciences（以下KPUHS）は、2015年1月にベトナムビントゥアン医科大学校Binh Thuan Medical College（以下BTMC）と国際交流協定を結び、教員間の学術交流を推進することになった。同年8月、看護学科教員2名がBTMCを訪問し、ベトナム国およびBTMCの医療や看護教育の現状を把握し、今後の交流内容を検討していくことを確認し合った。

ベトナム国の高齢化のスピードは日本より速く、高齢化率は2015年が6.7%、2030年には11.9%と予想¹⁾されている。政府はこの高齢化に対応して、2020年までにすべての国立病院と省病院に老年科を設置することを目標にしており、老年学を修得した医師や看護師の育成などが課題になっている²⁾。このような背景のもとBTMCから教員対象の高齢者健康ケアに関する講義と技術指導およびベトナムと日本の高齢者健康ケアの情報交換の依頼があり、看護学科教員2名がBTMCを訪問し、活動した。本稿では、BTMCにおける看護教育の現状とニーズを理解するための資料とする目的で、今回の活動内容を報告する。このことで、国際交流を推進するための課題を検討できると考える。

国際交流の概要

1. 目的

今回の国際交流の目的は、BTMCの依頼に基づく高齢者健康ケアに関する講義と看護技術指導およびベトナムと日本の高齢者健康ケアの情報交換である。

2. 活動日程と内容

今回の国際交流に関する活動日は2016年9月3日（土）～9月9日（金）で、詳細は表1のとおりである。

表1 活動日程と内容

月日	活動内容（主な担当者）
9月3日(土) ～4日(日)	移動
9月5日(月)	Welcome ceremony, キャンパス見学 Training on Elderly Health Care① 講義：高齢者の理解（竹内） Welcome party
9月6日(火)	Training on Elderly Health Care② 講義：高齢者の移動動作と看護（小林） Training on Elderly Health Care③ 演習：移動に関する看護技術(小林) Cultural exchange 香川県立保健医療大学および日本の紹介(竹内)
9月7日(水)	Tan Ha Elderly's Nursing Home 視察 Seminar on Health Care for the Elderly in Japan and Vietnam（小林、竹内）
9月8日(木)	リハビリテーション病院視察 Farewell meeting, Farewell party
9月9日(金)	移動

活動内容

本稿では、「1. 高齢者の健康ケアに関する講義・演習」、「2. 日本とベトナムの高齢者健康ケアに関するセミナー」、「3. ビントゥアン省の高齢者施設等の現状視察」および「4. BTMC教員および看護科学生との交流」の活動について報告する。

なお、世界保健機構では高齢者を65歳以上と概念規定しているが、ベトナムの法的概念規定では60歳以上が高齢者と位置づけられている³⁾。

1. 高齢者の健康ケアに関する講義・演習

「Training on Elderly Health Care①②③」として、高齢者の健康ケアに関する講義と看護技術演習を行った。事前に、ベトナム語に翻訳した講義資料を配付し、当日はパワーポイントおよびDVDを用いて日本語で行い、通訳者を介して講義と演習を行った。講義後は質疑応答の時間を持った。

まず、「Training on Elderly Health Care①」（写真1、2）では、BTMCの医科、看護科、リハビリ科等の教員対象に、高齢者を理解するための基礎知識として、日本



写真1 BTMC教員との集合写真



写真2 高齢者の健康ケアに関する講義



写真3 BTMC看護科教員による高齢者疑似体験

の高齢者人口の将来推移、加齢による身体的・心理的側面の変化および高齢者に多い疾患に関する援助について講義をした。それを踏まえ、日本の保健医療福祉制度と住宅改修や特別養護老人ホームの様子を紹介し、KPUHS看護学科における老年看護学の教育内容と、学生に高齢者理解を促すための高齢者疑似体験の演習場面を示した。また、その高齢者疑似体験で使用しているグッズのうち、特殊メガネ、腕のサポーター、指手の拘束具および耳栓を実際にBTMC教員に装着してもらった(写真3)。

「Training on Elderly Health Care②」では、①と同じ対象者に、高齢者の移動に関する看護技術を習得する基礎知識として、日常生活行動とその基本となる移動動作のメカニズム、高齢者の移動に関わる身体的特徴とアセスメントの視点および移動に関する基礎看護技術のポイントについて講義をした。DVD「実践看護技術シリーズ、日常生活の援助編」の視聴も加え、講義をした。

その後、看護演習室にて、看護科教員のみを対象に「Training on Elderly Health Care③」(写真4、5)として、DVDで視聴した臥位や座位の体位変換の援助、歩行



写真4 看護技術演習



写真5 看護技術演習

の援助をデモンストレーションし、BTMC教員同士で看護技術演習を行った。BTMC教員のスキル自体は非常に高く、ある教員は脳卒中の親を看護した経験から得られた技を披露し、このような方法もあると示してくれた。

高齢者健康ケアに関する講義後の意見や要望として、日本とベトナム間の社会経済的背景や保健医療制度・提供システムの大きな違いを前提として、今後の急速な高齢化に危機感を抱いていることや国家政策の課題を認識していること等があった。また、看護科教員からは、ベトナムでは、入院中の高齢者や患者の日常生活上の世話は家族による介護が一般的であり、患者の自立度を3段階に区分し、自力で動けない人のみ看護師が日常生活上の世話をすると説明があった。さらに、今回の講義で紹介したDVD、患者の自立度アセスメント指標、学生の学習到達度チェックリストなど、学生の教育にすぐ活用できる教材を提供してほしいと要望があった。看護の教科書は政府からの配給がなく、近隣の大学教員や関係者が研修をして、独自に教育内容を検討しているということで、要望のあった資料の出典や販売元を提示した。

質問として挙げたのは、看護師として高齢者施設で働くための資格の有無、KPUHS卒業生の高齢者施設への就職率、BTMC卒業生がKPUHSに入学する場合の老年看護学を学ぶのに必要な年数等についてであった。いずれも高齢者の看護は特別な知識・技術が必要であるという認識を持っていることが伺えた。ベトナムの2015年の高齢化率が6.7%という数字が表しているように、身近に高齢者がおらず高齢者のイメージを描きにくい。また、高齢者看護を教授する必要性に迫られているが、教育政策が教育現場のニーズを満たすものでないことにより、学生教育に困難を抱えていることが推察された。

2. 日本とベトナムの高齢者健康ケアに関するセミナー 「Seminar on Health Care for the Elderly in Japan and

表2 セミナープログラム

タイトル (発表者)
The Curriculum of Health Care for the Elderly at BTMC (Ms. Tran Truong Bich Huyen-B.N, Dupty Dean of the Medical Faculty, BTMC)
Health Care for the Elderly in Tuy Phong Hospital, Tuy Phong district, Binh Thuan province (Ms. Pham Thi Phu Phuoc-B.N, Chief nursing officer, Tuy Phong Hospital)
日本の脳卒中医療の現状と今後の課題－看護研究の視点－ Change in the Medication Behavior during One Year after Stroke in Patients with Initial Mild Ischemic Stroke (小林秋恵)
日本における退院調整の現状 [Discharge Plan for elderly patients in Japan] (竹内千夏)

Vietnam」]として、BTMC教員、省病院や高齢者協会関係者の参加のもと、両国の高齢者健康ケアについて4名が発表をした。ベトナム側の発表に関してはベトナム語と英語に翻訳された資料が当日配付され、発表はそれぞれの母国語で行い通訳者を介し理解した。プログラムは表2のとおりである。

まず、BTMC看護科教員の代表から、高齢者健康ケアのカリキュラムと教育の現状について発表があった。BTMCでの高齢者看護の授業は30回あり、精神的・身体的特徴、栄養・運動・精神的ケア、よく見られる疾患、薬物療法、アルツハイマー病と関節炎などで構成されている。教員スタッフは高齢者ケア看護師として質は不十分だが教育熱心であり、国内外の研修に積極的に参加している。現在、保健省が編集した高齢者ケアに関する教科書はなく、学生の授業資料の多くは海外研修で得た資料をもとに教員スタッフが作成している。また、演習・実習プログラムがないことも課題である。高齢者の多くが自宅で家族による介護を受けており、さらに実習病院には老年部門がないことから、入院している高齢者自体がほとんどいない。さらに、高齢者施設は大学から遠いため、成人期看護実習時に高齢者の特徴を踏まえて教授するに留まっている。このような状況で、学生の高齢者理解が難しいため、ボランティアに参加することを通して理解を促していることが述べられた。

一方、BTMCの修士号を取得した教員が主導している共同研究の紹介では、ビントゥアン省内において高齢化のスピードが急速であり健康ケアのニーズが高く、各医療機関や自宅において高齢者ケアができる看護師の教育の必要性が明らかになった、という報告があった。

次に、ビントゥアン省内の地方にあるTuy Phong病院の看護部代表者からは、病院における高齢者健康ケアの法的根拠、自施設の紹介と高齢者ケアの現状について発表があった。

ベトナムでは2010年に高齢者に関する包括的な法律が施行され、保健医療分野は保健省のガイドラインによ

り、高齢者健康ケアに関する伝統医療と近代医療の統合および看護ケア等が規定されている。Tuy Phong病院は、救急病床を含む185床を備え、サテライトのクリニックを持ち、年間入院患者数約12,700人（2割が高齢者）、6つの診療部門があり年間外来患者数約186,000人（3割が高齢者）、237名の職員（うち医師31名、看護師106名、薬剤師2名）が所属している。高齢者によくみられる疾患は高血圧、進行性関節炎、糖尿病、脳循環不全、慢性肺炎で、疾患に合わせて伝統医療と近代医療を適切に組み合わせている。看護師は高齢者に専門的助言、健康ケアの方法や薬の使い方を指導している。世話やコミュニケーションをとる時は思いやりのある尊重する態度で接し、病気の克服を支援している。一方、高齢者は患者会に属し、病院に自らの意見を述べるができる。そして医療機器・設備は充実してきたが、高齢者の病状変化のモニタリングの困難さや医療ニーズを満足させるには至っていないことを課題として挙げ、リーダーの導きにより医療スタッフの協力体制は良く、態度や専門的スキル、診断治療、感染コントロール環境、医療設備等に関して研鑽を積んでいることを強調していた。

BTMC看護科教員代表とTuy Phong病院の看護部代表者の発表から、高齢者の健康関連の法律やガイドライン等の整備は進んでおり、各施設は忠実に政策に従って施設運営をしていること、地域格差や経済格差も重なり、現場での保健医療の提供体制の構築は発展途上であり、各医療施設や教育機関の自助努力にゆだねられている現状が理解できた。

「日本の脳卒中医療の現状と今後の課題」および「日本における退院調整の現状」の発表においては、発表者の臨床経験および研究成果の知見を踏まえて日本の現状について報告した。参加者の医師からは、日本における伝統医療の活用程度と保険適応、脳卒中の治療とリハビリテーションの効果についての質問があった。ベトナムでは脳卒中の後遺症に高麗人参や鍼を使い、再発の場合はほとんどが死亡に至ると説明があった。また、医療依存度の高い高齢者の自宅退院を支援するために、多くの専門職が集うカンファレンスについて全くイメージが持てないようであり、日本の保健医療福祉制度と現場の実践について説明を加えた。

3. ビントゥアン省の高齢者施設等の現状視察

1) 社会保護施設の視察

ベトナムでは高齢者のための介護・福祉施設として、国や省が運営する社会保護施設と民間経営の有料老人ホームがあり、社会保護施設は基本的に障がい者や孤児、家族のいない高齢者など、社会的保護の必要な人を対象にしている。ビントゥアン省都ファンティエットから70kmほど離れた農村地帯に位置するハムタン郡のTan Ha Elderly's Nursing Home (写真6)を訪問し、副センター長から施設の概要の説明を受けた。



写真6 社会保護施設



写真8 社会保護施設の室内



写真7 社会保護施設の室内



写真9 社会保護施設の保健室

この施設は省が運営する社会保護施設で、身体障がい者、精神障がい者、家族のいない高齢者、合わせて170名が入所しており、精神障がい者が123人と最も多かった。60歳以上的高齢者は44名で最高齢者は96歳であった。施設職員数は24名（管理職3名、看護師4名、調理人3名、食事を提供する人3名、介護関係者11名）で、常駐の医師はいない。施設敷地内の中央には花壇やベンチがあり、それを囲み、入所者の住居と保健室、厨房、霊安室、会議室があった。入所者は、様々な年齢層や健康レベルを組み合わせ家族のような集団がつくられ、5ベッドの多床室（写真7）で睡眠をとり、その隣には台所、食堂、居間が合体した部屋（写真8）で交流できる構造になっており、自宅で家族と暮らしているような環境が作られていた。寝たきりの高齢者や疾患をもつ入所者もいた。精神障がい者の住居は区分けされており、洋服の色も区別されていた。

入所者の健康管理は、毎週1回の郡病院所属の医師の往診と施設看護師による服薬管理によって行われている。保健室（写真9）には筋肉トレーニングの機器があり、看護師はここに常駐し、内服薬の管理と健康手帳・

精神障がい者手帳の記載や管理が主な業務であった。また、3交替制の夜勤もしていた。看護師の月額給料は350万ベトナムドン（以下VND、1 VND=0.005~0.006円）日本円で約2万円（ホーチミン市労働者の月額最低賃金350万VND⁴⁾）であり、入所者の健康は看護師の母親のような奉仕・献身の精神により支えられているとのことであった。

施設運営の資金は、国の補助金が60歳以上には一人当たり108万VND、60歳未満には81万VNDであり、他に寄付金や企業からの支援があるが、不安定な財源とのことであった。

2) リハビリテーション病院の視察

2014年に設立されビントゥアン省内で2番目に大きな規模の、伝統医療を応用したリハビリテーション病院を訪問した。受付には診断・治療や入院に係る価格を表示したボードが掲示されていた（診察3.5万VND、磁気治療1.5万VND/時間、エアコン付きベッド20万VND/ベッドなど）。

この病院はICUも含め300床あるが、実際に稼働してい

るのは180床程度で、そのうち約70床をリハビリテーション対象者が使用している。これら患者の7割は脳卒中後遺症で、他には脊椎ヘルニア、関節疾患、ポリオ、ダイビング症候群の患者がいる。一日の外来患者は約200名程度で、診療科は内科、外科、リハビリ科等である。施設職員数は172名（医師28名、看護師70名、リハビリテーションスタッフ38名、薬剤師等）で、入院と外来のリハビリテーションを担うのは、伝統医3名、リハビリテーション医4名、療法士31名であり、4つのグループ（ツボ療法、鍼療法、電気療法、運動・作業・言語療法）で構成されている。療法士はすべての療法を行うことができ、看護師にもツボ療法を学習させている。

施設の敷地は広大で、庭も広く、施設内の廊下も非常に幅広い。外来、病棟、洗濯室や漢方薬の製造・管理室等を見学した。病棟の多床室には簡素な造りのベッドがあり、トイレも併設されていたが、患者のパーソナルスペースは非常に狭い。入院患者の日常生活の世話は家族がしており、娘と思われる若い女性の姿をよく見かけた。また、治療室（写真10）では通院患者にも家族が付き添っていることが多く、療法士から自宅での運動の指導を受けていた。四肢の麻痺がある患者への鍼療法の場



写真10 リハビリテーション病院の治療室



写真11 リハビリテーション病院の漢方薬製造部

面を見学したが、療法士は清潔操作を意識しているようであるが的確ではない手技であった。

伝統医療の病院であるため漢方薬の製造部門もあった。薬草は主に中国から輸入し、病院内で調合しており、薬剤師が煎じた漢方茶を個別包装（写真11）していた。

看護師の主な業務は、入院患者の内服薬の管理・与薬、外来での案内業務、また、ICUの重症患者の世話であった。病棟の一角に看護師詰所があり、カルテ記載している場面を見たが、院内で患者と対面している様子を見る機会はなかった。

4. BTMC教員および看護科学生との交流

「Cultural Exchange」として、BTMC教員と3年生約150人を対象に、KPUHS看護学科および日本の看護学教育について紹介した（写真12）。平成27年度も同様の内容を紹介したが、対象となる学生が違ったためか、昨年と同じ質問があった。

質問内容は、日本で看護師として働くための方法と知っておくべき文化的特徴、高齢者看護の留意点、KPUHSに留学する場合の学費や日本語能力などであった。また、学生部長の教員からは、日本で学びたい、働きたいと思っている学生が多い現実を踏まえ、日本語教育を含む交換留学制度等の検討を希望された。これらの質問に対して、日本とベトナム間の経済連携協定 Economic Partnership Agreement（以下EPA）の規定上の要件や看護師免許取得の方法、BTMCとKPUHSの国際交流の現在の方針について説明した。

日本はEPAに基づき、2014年からベトナム人看護師の受け入れ事業を実施しており、日本語能力試験N3を看護師候補者の要件として課し2014年に138人、2015年に152人訪日した。2015年の「第104回看護師国家試験」にて20人が受験し、1名が合格している^{5, 6)}。



写真12 Cultural Exchange

おわりに

今回、ベトナムの急速な高齢化に伴う高齢者ケアの必要性から、BTMC教員を支援する目的で訪問した。高齢者健康ケアについての講義と看護技術指導、セミナーでの情報交換、高齢者施設の視察等を行った。市中を走るバイクには若い世代が乗車し、子供たちも多く、高齢者施設にいる高齢者は日本に比べるとかなり年齢層が低い。BTMCの教員や学生にとって高齢者をイメージすることは難しいと推察できた。また、高齢者ケアに関連した日本の制度や現場の実践、看護学教育を紹介したが、ベトナムの現状とは大きく異なり、自施設の取り組みの参考にするには困難があると思われた。一方で、ベトナムの教育現場や実践現場が他国から支援を受け、また、近くの関係機関と協力して独自の努力を続けていることも十分理解できた。

日本において看護実践や看護学教育は社会の少子高齢化に伴う課題に应运ってきた。その経験や教訓を活かした支援が必要であるが、ベトナムの急速な経済成長による経済格差と価値観の変化は、若者の都市部あるいは海外への流出を生み、日本とは違う高齢者看護の必要性や介護問題を生みだしている³⁾。このようなベトナム国の成長発展に伴い、BTMCの国際交流上のニーズも変化すると考えられる。

講義をするにあたり、事前にベトナム人大学院生に依頼してベトナム語に翻訳した資料を作成した。講義当日は「せん妄」や「ボディメカニクス」について、医療の知識がある通訳者を介して用語の説明をしたが、共通理解を得ることに時間を要した。また、科学的根拠やアセスメントの視点、倫理的配慮などを含めて講義・演習を行ったが、BTMC教員は、看護技術にそれらを考慮することの意味を理解できない様子も感じ取れた。高齢者ケアについての学習ニーズがあれば、対象の理解や、なぜそれをするのかについて教授することが必要になってくる。症状や疾患、看護の用語の概念定義が浸透していないなかで講義をすること、ベトナム語と日本語で共通理解すること、看護学教育と実務教育の違いを認識したう

えて講義すること、これらの点を考慮し、十分な準備をして学術交流活動に臨む必要があると考える。

なお、本稿に視察した施設の写真を掲載することについて、施設管理者の許諾を得ている。

文 献

- 1) United Nations. Department of Economic and Social Affairs: Population Division, World Population Prospects 2015, 2016-9-16, <https://esa.un.org/unpd/wpp/Download/Standard/Population/>
- 2) 三木博文, 長井圭子. ベトナムの高齢化の現状と日本の支援の可能性. こうえいフォーラム 23: 55-64, 2015.
- 3) 赤塚俊治. ベトナムの単身高齢者世帯の実態調査を通じた今後の高齢者課題について—農村部の生活実態調査に基づく考察—. 東北福祉大学研究紀要 37: 1-19, 2013.
- 4) JETRO. 外国人就業規制・在留許可, 現地人の雇用, 2016-9-28, https://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/invest_05.html
- 5) 厚生労働省. 2015年海外情勢報告, 第5章第7節ベトナム社会主義共和国労働施策, 2016-9-20, <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/16/dl/06.pdf>
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/16/dl/t5-14.pdf>
- 6) 厚生労働省. EPA ベトナム人看護師・介護福祉士候補者の受入れについて, 2016-9-28, <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049737.html>

受付日 2016年10月3日

受理日 2016年12月12日

